

第4回 学長記者懇談会

～知を繋ぎ、知で繋ぎ続ける九州工業大学に向けて～

2017.5.30 (火) 13:30～



国立大学法人

九州工業大学

Kyushu Institute of Technology

2016年度の取り組み (前年度の実績)

(1) 教育支援・学生支援

- 2018年度 改組計画の推進
- 6年一貫教育【グローバル・エンジニア養成コース（GEコース）】への登録開始
- 産学連携教育審議会の開催（3回目）



2018年

九工大の**学科**と**入試**が新しくなります

- ◇ 『学科の再編』 と 『コースの設定』
- ◇ 『類別入試』 の導入

◇ 『学科の再編』 と 『コースの設定』

産業構造の変化や社会のニーズに対応するため、学科を再編し、さらに大学院への接続を円滑にするコース制を設定。

将来像をより具体的にイメージ



大学院進学を含めた進路のより柔軟な選択が可能に

新たに機械工学や電気工学の観点から総合的な宇宙工学を学ぶ「宇宙システム工学科」を開設

工学部

すべての学科を見直し、新たに5学科に再編。さらに出口（就職）を意識したコース制も導入

情報工学部

◇ 『類別入試』 の導入

『類別入試』とは、「類」で受験、入学し、2年生進級時に学科配属を行うしくみ。入学後の「大学での学び」を通して進学する学科を選択できます。

入学者は、まず1年次で「類」に所属し、応用性の高い基礎知識と複眼的視野を養成する共通教育（グローバル教養科目、自然科学科目、情報科目など）を受講します。2年生進級時に適正や興味などに応じた進路を選択、「学科」に所属して専門的な学修を行います。



『類別入試』は進路選択のミスマッチを無くし、社会的ニーズに応えられる人材教育を可能にします。



2018年 改組計画

工学部

入試	1年生	進路選択 (2年生進級時)	学科 (2年生~)	コース
工学 1 類 (建設社会系)	共通教育 (工学部)	工学 1 類	建設社会工学科	<ul style="list-style-type: none"> 建築学コース 国土デザインコース
工学 2 類 (機械知能・宇宙系)		工学 2 類	機械知能工学科	<ul style="list-style-type: none"> 機械工学コース 智能制御工学コース
工学 3 類 (電気電子・宇宙系)		工学 2 類	宇宙システム工学科	機械宇宙システム工学コース
		工学 3 類		電気宇宙システム工学コース
		工学 5 類		電気エネルギー工学コース
工学 4 類 (応用化学系)	工学 3 類	電気電子工学科	電子システム工学コース	
工学 5 類 (マテリアル・宇宙系)	工学 4 類	応用化学科	応用化学コース	
	工学 5 類	マテリアル工学科	マテリアル工学コース	

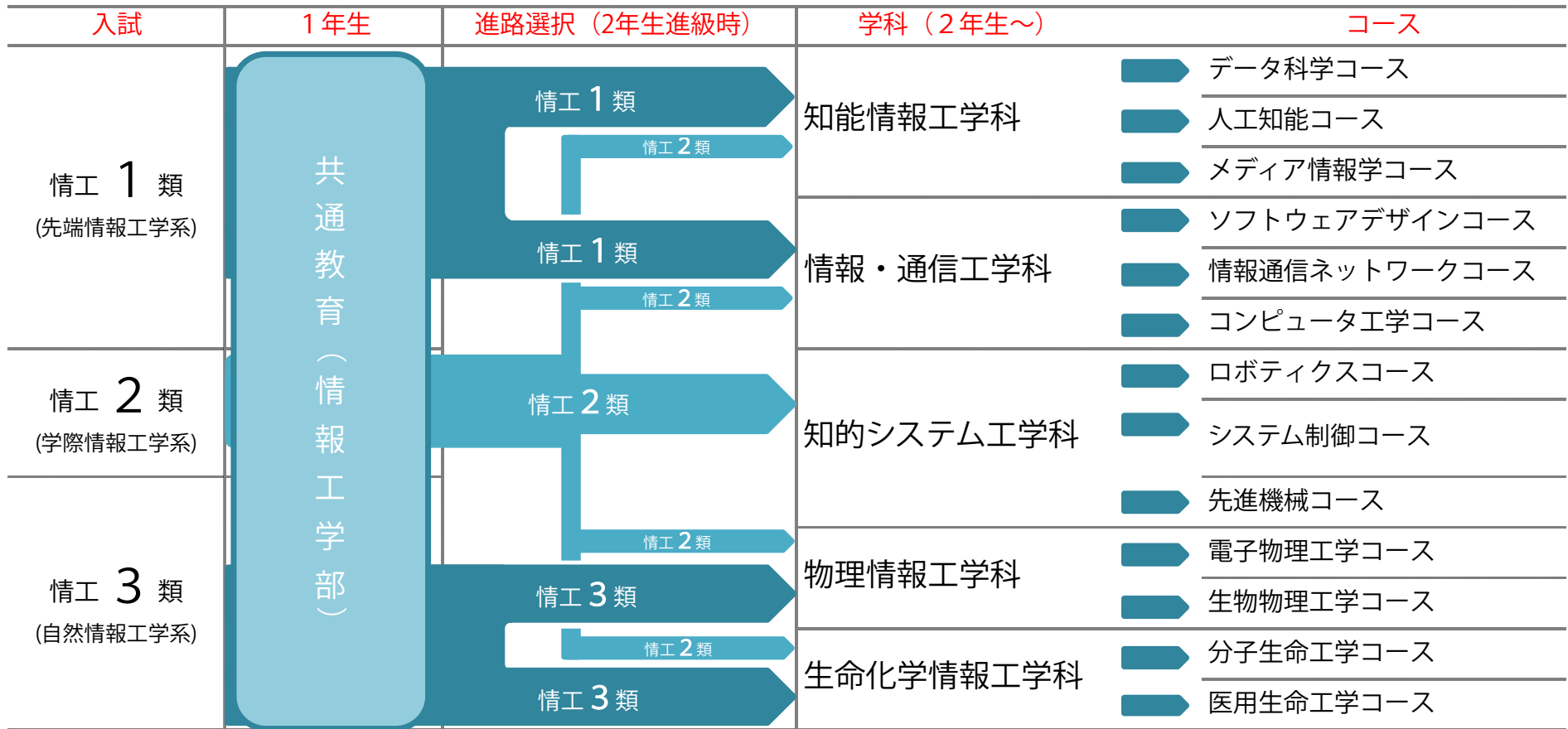
類別入試

新しくなった学科とコース



2018年 改組計画

情報工学部

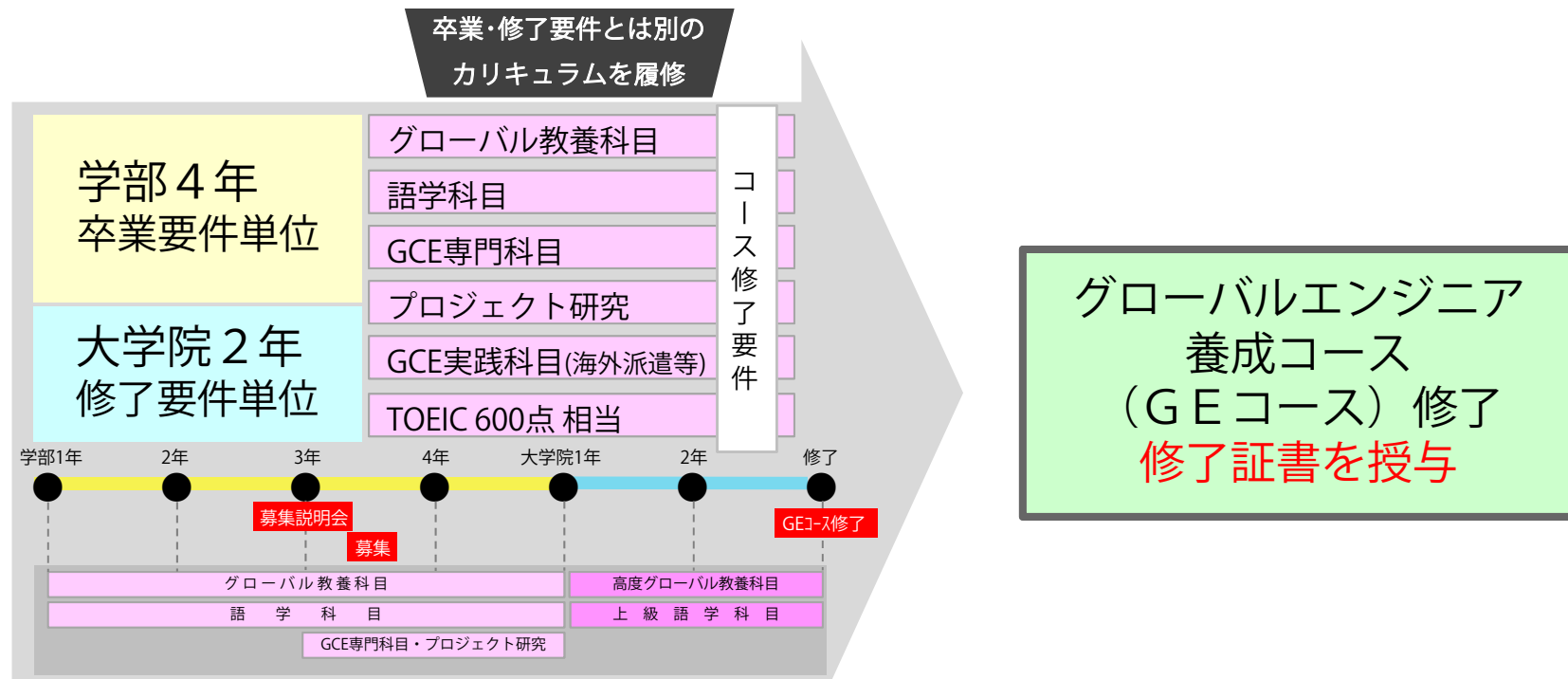


(1) 教育支援・学生支援

- 2018年度 改組計画の推進
- 6年一貫教育【グローバル・エンジニア養成コース（GEコース）】への登録開始
- 産学連携教育審議会の開催（3回目）

グローバルエンジニア養成コース (GE コース)

産業界からのニーズに即したグローバル人材を養成するために開設された6年一貫教育プログラム



H26年度入学者 ⇒ 185名の登録 (34%) -----> 目標は60%

初回

(1) 教育支援・学生支援

- 2018年度 改組計画の推進
- 6年一貫教育【グローバル・エンジニア養成コース（GEコース）】への登録開始
- 産学連携教育審議会の開催（3回目）

民間企業の人事担当部長等のメンバーにより、本学が進めている教育改革に産業界からの意見を取り入れることを目的とした取り組み

産学連携教育審議会 (H27.1.7 設立)

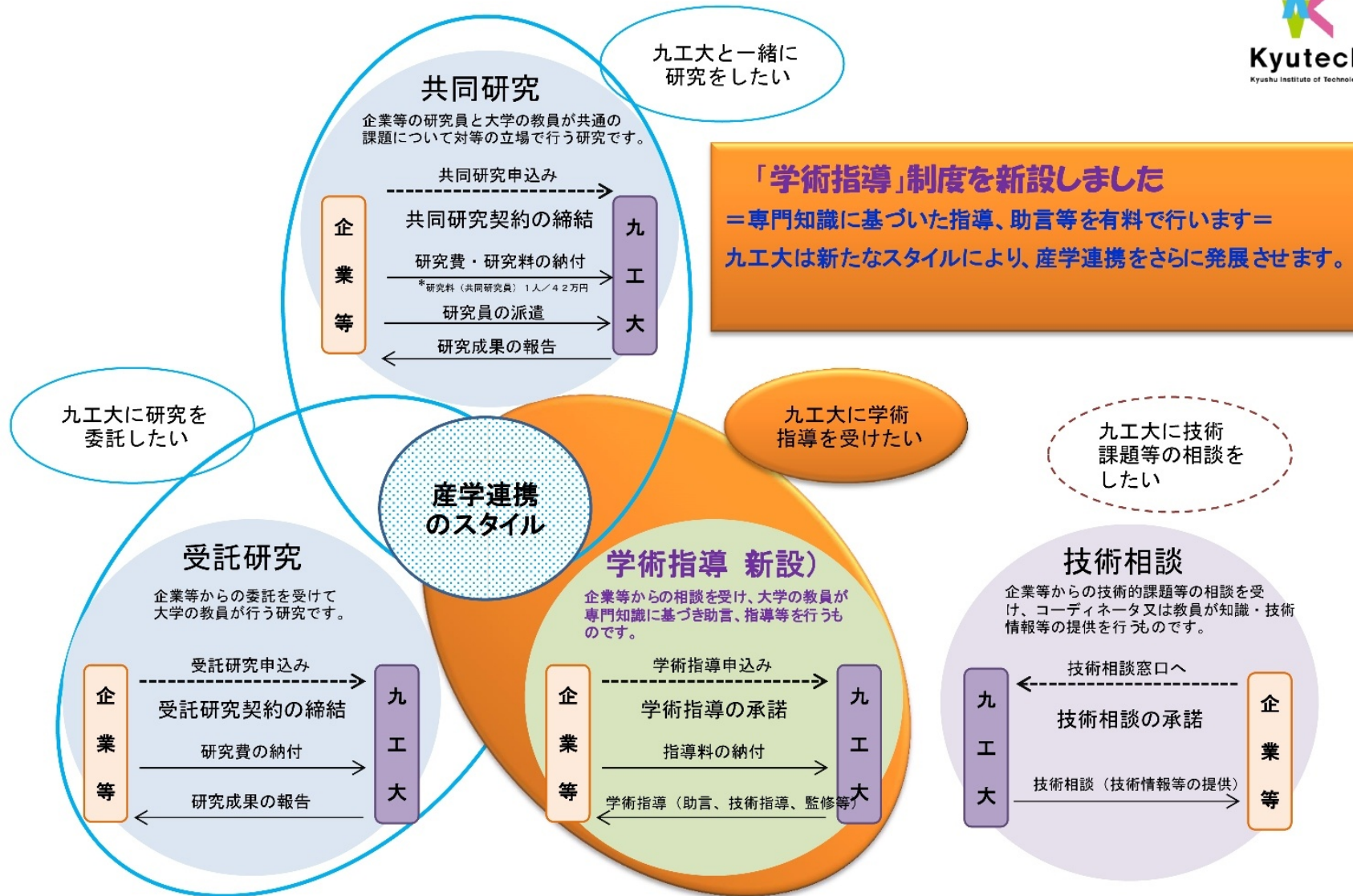


(2) 研究力強化

- 国立大学改革強化推進補助金「優れた若手研究者の採用拡大支援」→7名の採用枠獲得
- 産学連携のため「学術指導」制度の導入
- 海外の研究機関または高専で研究者として活躍する卒業生との連携支援事業→7件採択

(2) 研究力強化

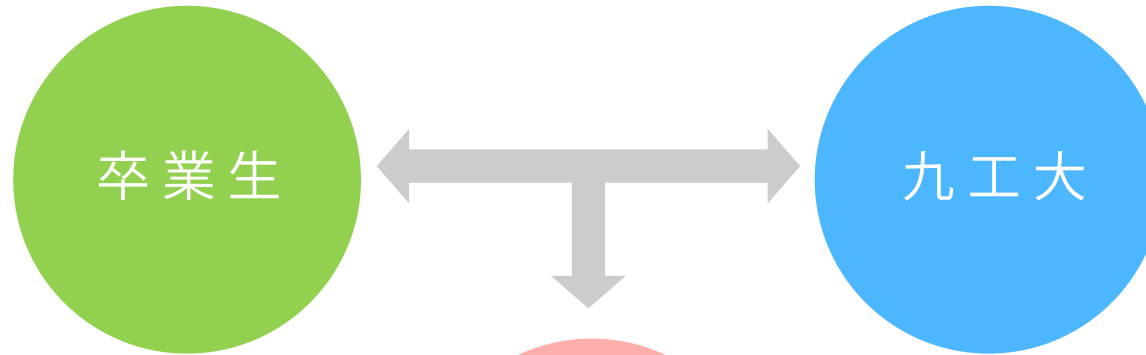
- 国立大学改革強化推進補助金「優れた若手研究者の採用拡大支援」→7名の採用枠獲得
- 産学連携のため「学術指導」制度の導入
- 海外の研究機関または高専で研究者として活躍する卒業生との連携支援事業→7件採択



(2) 研究力強化

- 国立大学改革強化推進補助金「優れた若手研究者の採用拡大支援」→7名の採用枠獲得
- 産学連携のため「学術指導」制度の導入
- 海外の研究機関または高専で研究者として活躍する卒業生との連携支援事業→7件採択

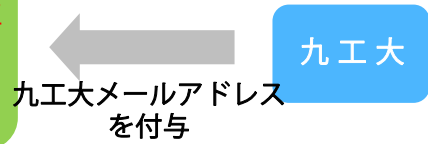
卒業生との「つながり」



新たな
関係性を
創造

九工大メールサービス

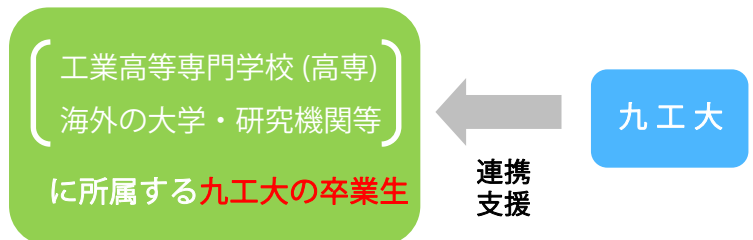
- 1. 在学生
- 2. 卒業生・修了生
- 3. 教職員
- 4. 退職教職員
(非常勤講師は除く)



- ・ 九工大からのメールマガジン
- ・ 卒業生との情報交換
- ・ 同窓会からのお知らせ など

※ Microsoft社が教育機関向けに提供しているOffice 365 Educationを利用

卒業生との連携支援事業

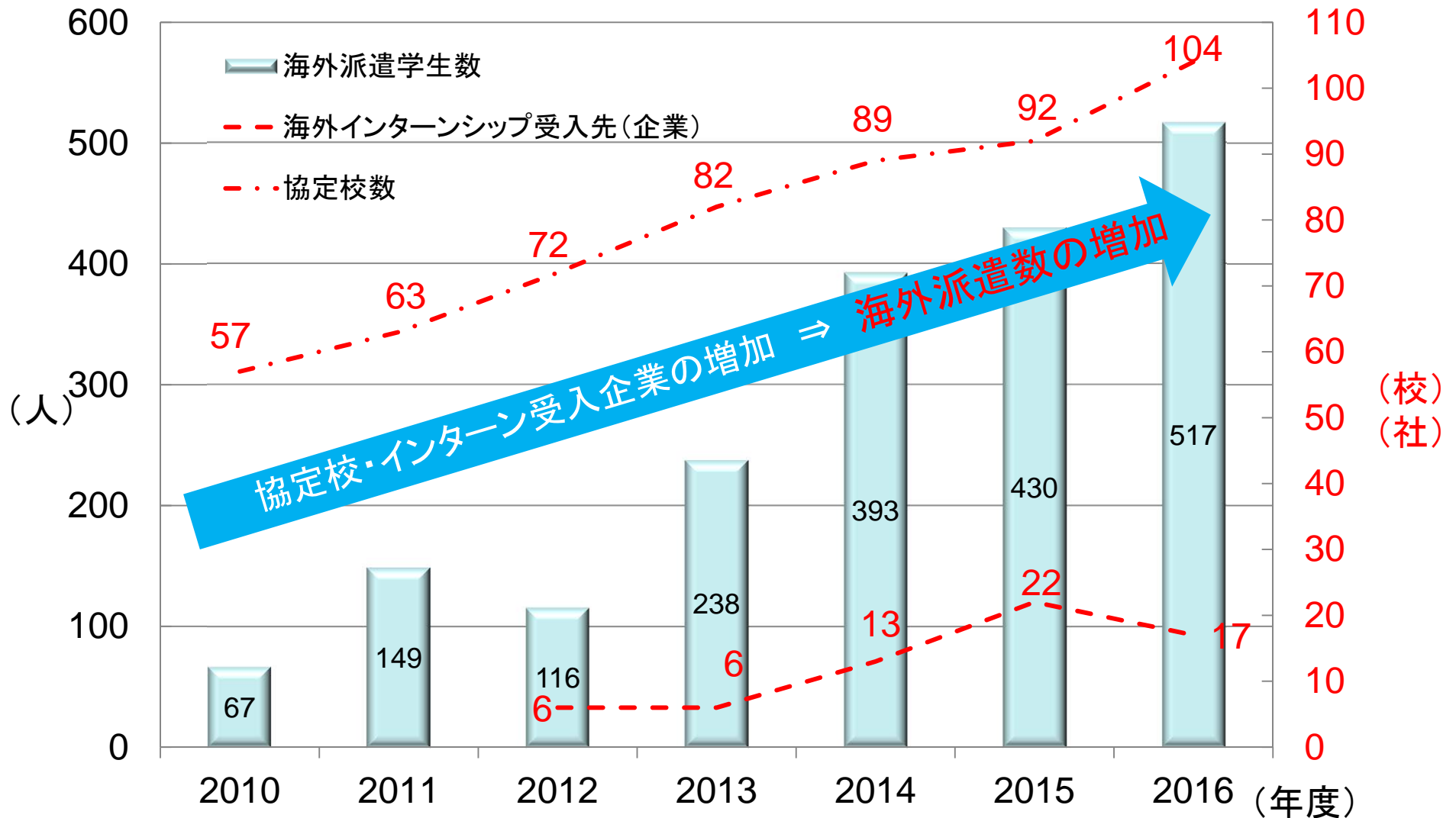


- 本学卒業生を窓口とした連携事業 (H28年度)
 - ・ 旅費 (学生を除く)
 - ・ 共同研究等に係る消耗品費等
 - ※ 上限額⇒①高専：20万円、②海外の大学等40万円
- H28年度スタート**

(3) グローバル化の促進

- ・タイ（キング・モンクット工科大北バンコク校）や台湾（台湾大、台湾科技大、台北科技大）における研究拠点形成への展開
- ・新たな国際交流協定校：20校（ニューヨーク市立大シティ校など）
- ・JICAとの協力体制の構築
- ・マレーシア^oトラ大とのLOI締結
- ・学生の長期海外派遣の推進（Erasmus+でフランスへ4名、6月）
- ・学生の海外派遣の拡充 393名→430名→517名

海外派遣数の推移

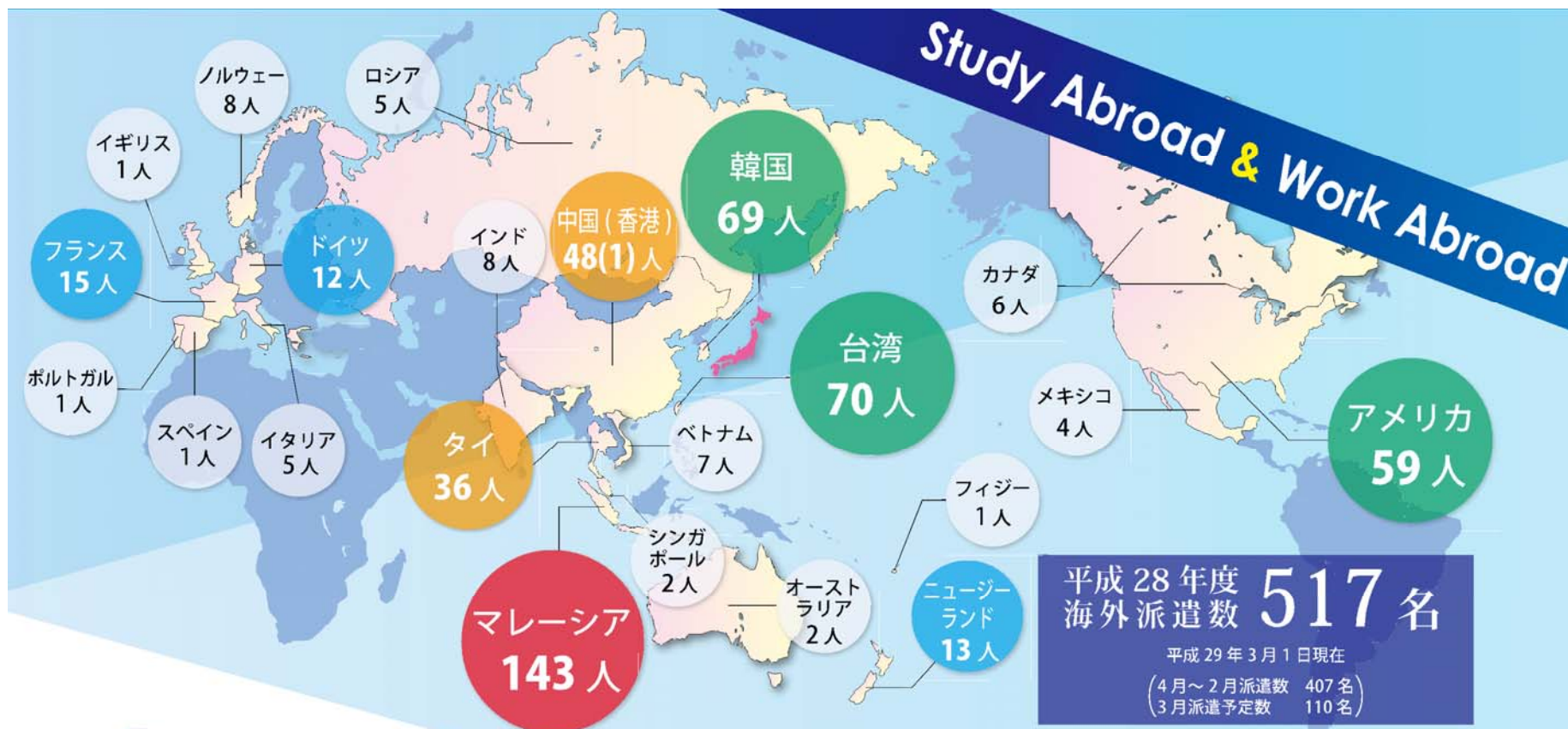


■平成28年度実績 22カ国・地域へ

Top5 マレーシア 143名・台湾 70名・韓国 69名・アメリカ 59名・中国 49名



平成28年度 海外派遣プログラム成果(派遣学生数)



平成28年度 517名の学生を海外派遣(単年で学部学生の約6%、大学院生の約17%が海外へ)
 <<マレーシア拠点を有効活用>>

マレーシア派遣数

119人
平成26年度

130人
平成27年度

143人
平成28年度

海外派遣者の
1/4以上

(4) 入試制度改革

- OBを活用したAO型入試の導入、展開の調査検討
- 2018入試に向け、アドミッションポリシーの決定

(5) 管理運営体制

- 人材活性化推進会議の設置
(部局の枠を超えた教育職員の人事異動を実現)
- 財政基盤強化のための「九工大基金」の設置
(2016.11より。2017.3.31現在600万円、52個人/団体より)
- 経営企画会議を定期開催 (組織的な情報共有等迅速な判断のため)

九州工業大学基金

一般資金

1. 教育研究の充実及びそのための環境整備に関する事業
2. 学生の課外活動支援に関する事業
3. 学生に対する国際交流活動の推進に関する事業
4. 学生の修学支援に対する奨学金等の事業
5. 学生の就職支援に関する事業
6. その他基金の目的達成に必要な事業

特定資金

修学支援事業基金

(経済的理由により修学が困難な学生等に対する支援)

九工大基金

平成28年度スタート！

【ひきつぎ】

創立100周年記念事業

【平成21年度～平成27年度】

100周年記念事業費

創造学習支援事業

大学院学生支援事業

海外研修事業

教育研究拠点整備 など

学生の探求力、課題解決力を涵養することを目的とした**創造学習支援事業**
チームプロジェクト育成の貴重な「種まき」

⇒⇒⇒ 学生フォーミュラ、ロボットコンテスト、電気自動車作成プロジェクトなど

100周年記念事業の一つとして企画した**小型衛星「鳳龍弐号」**の打ち上げ

⇒⇒⇒ 「鳳龍四号」に繋がり、「四号」からの発信電波は本日も戸畑キャンパスに

海外研究事業

⇒⇒⇒ 平成25年度の文部科学省の補助金「国立大学改革強化推進事業」の採択に繋がり、平成26年度に393名、平成27年度に430名もの学生を海外に派遣

(6) 学内外との“インタラクション”

- ・ 新規採用教員等と学長との定例意見交換会
 - ・ 事務・技術職員への満足度調査実施
-
- ・ 学長記者懇談会の定期開催
 - ・ 北九州市との第1回幹部懇談会開催
 - ・ 福岡県警との「サイバーセキュリティに関する協定」
 - ・ H28地域イノベーション・エコシステム形成プログラムに北九州市と連携し採択「IoTによるアクティブシニア活躍都市基盤開発事業」

↑ (学内)

↓ (学外)

(7) 男女共同参画事業

- ・ 2016.4 男女共同参画推進室を設置

⇒ 学長宣言、アクションプランを策定

活動時期		活動内容
2016年	5-6月	女性教員ヒアリング実施
	10月	男女共同参画に関する執行部セミナー 教員向け講演会の開催
	11月	男女共同参画に関する全職員アンケート実施
2017年	1-3月	育児等による土日入試業務の調整
	2月-	在宅勤務制度の導入（4名が活用）

2017年度の取り組み 予定 (今年度の展望)

(1) 国際連携強化のために

- 国際特任助教採用・外国人教員の短期受入
- 海外の大学との研究連携の充実に向けた大学間共同研究支援、国際共同研究センター設置
- 博士論文、修士論文の国際共同指導の強化
- 協定校との連携強化などの国際連携高度化支援
- 教員海外派遣プログラムの充実

(2) 戦略的研究推進のために

- 特任助教の採用等による先進的分野横断型研究の推進
- 外部資金獲得に向けた組織見直し
- 論文数増大に向けた学振による「特別研究員」への申請支援
- 研究者支援、共同研究講座の設置・運営支援による産学連携研究の推進

(3) 教育の高度化のために

- グローバルエンジニア養成に向けた英語教育の強化体制構築
(TOEIC 600点を目標)
- 海外インターンシップや国際協働学習の促進によるGCE教育改革強化
- 大学院産学連携型教育プログラムの支援
- 学生データ（入試から就職まで）を活用した教育IRの実践
- 留学生受入促進に向けた英語で講義を行う大学院国際コースの充実
- アントレプレナー教育の導入について検討

(4) 高大接続の円滑化のために

- 多様な学生確保に向けたAO型入試の実施方法決定
- 全国からの志願者を増加させるため戦略的な入試広報の実施および説明会の開催エリア拡大等
- 入試広報、高大連携、入学前教育、リメディアル教育等を利用した大学教育への接続のためのAO室の強化